

第13号
2008.3

たじま 夢つうしん



卵を見守る親鳥

但馬地域夢会議が開催されました。

平成19年12月に「但馬地域夢会議」を開催しました。この会議は、地域ビジョンの推進に向けた取組を参加者が共有し、活動の充実と拡大に向けて広く意見交換を行うものです。

会議には、但馬夢テーブル委員を中心に地域づくりに関心のある住民など約130名が参加し、県民行動プログラムの取組報告と意見交換を行い、地域の活性化策や課題などについて熱心に話し合いました。

また、井戸敏三知事も出席され、意見交換の結果報告を受けてコメントを頂きました。

主な意見

- 地域づくり活動の様々な取組事例を知ることができ、自分たちの活動に大変参考となった。
- 但馬の素晴らしい地域資源を活かすには、個々で考えるより連携していくことが大切である。
- 食の安全・安心は、消費者が本物の食を知り食べることが必要である。
- 防災・減災の地域づくりは、行政まかせではなく住民や障害者、高齢者も当事者として積極的に参加することが大切である。



主な知事コメント

- 地域活性化に取り組む皆さんの役に立つ情報として、地域活動事例集の作成を全県的に取り組むことを検討したい。(H20年度に県事業として取り組むことが決まりました。)
- これからの地域活性化には「二地域居住」の観点が必要です。阪神間の住民に第二のふるさとを但馬に作ってもらうための活動を進めてもらいたい。
- 地域づくり活動の活性化には、新しいパートナーを見つけ、新しい分野へ活動を広げていくことが非常に大切です。皆さんの活動が連携、拡大し活性化されていくことを期待しています。

地域夢会議の内容は但馬地域ビジョンのHP(このページの下に記載)で公開していますので、ご覧ください。

○次回の地域夢会議は5月に開催予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

但馬夢テーブル委員会って何?

21世紀兵庫長期ビジョンに基づく「但馬地域ビジョン」を地域住民の参画と協働により実現していくため、但馬県民局に設置された委員会です。

県民行動プログラムって何?

「自分たちですぐにできること」「行政の支援を得ながら自分たちでできること」「行政と密に連携しながら共にできること」などの行動を中心として、多くの地域住民の参画により行動を展開するための「宣言」「手引き」です。

注目の活動 (今回は、行政や団体との連携を活かして活動するグループを紹介します。)

●食の安全・安心グループ

ごはん食の良さをみんなで実感

私たちのグループでは、現在販売されている食材の安全性に疑問を持ちました。日本人は元々農耕民族であるのに、最近の食事は急速に欧米化が進み、若いお母さんが作る料理は手軽さから、レトルト食品・冷凍食品・インスタント食品を使った食事が多くなっているのではと考えます。そのためとは言えませんが、昔はあまり聞かなかった、アトピー、花粉症等の病気が多くなってきているのではないかと思います。

私たちのグループは、減農薬で作られた米・旬の野菜、魚を中心にした材料を使い「地産地消」の良さや、ごはんを中心にした食事の良さ、大切さを認識していただくため、豊岡市の子育て総合センターのご協力を得て20代から30代の若いお母さんを中心に勉強会を開きました。

《これまでの活動状況》

①「親子体験実習」

コウノトリ育む農法を実施している豊岡市祥雲寺地区で、若い世代の親子を対象に田んぼの生き物調査や安心ブランドの野菜の収穫、それらを利用し調理試食を行いました。ピーマンの嫌いな子供も美味しいと言って食べてくれました。



ミキサーを使って胃の中をシミュレーション

②調理実習「お母さんが作る朝ごはん」

但馬文教府で元管理栄養士の先生を招き、朝ごはんの大切さについて講演をしていただき、調理実習を行いました。講演では、「ごはん食」と「パン食」後の胃袋の様子を再現し、子育て中の若いお母さんに朝ごはん食にする良さを実感していただきました。

③講演会「食べものとお母さんのいのち」

3月に豊岡市民プラザ(アイティ7F)で講師に兵庫農漁村社会研究所 代表保田茂先生を迎え、「食べものとお母さんのいのち」というテーマで講演会を行いました。

《今後の活動計画》

- ①魚食の普及講演会：5月中旬
- ②合鴨農法の田んぼ視察・調理実習：6月中旬
- ③講演会「病気の治癒は自分の免疫力」：7月19日 13:00~16:30
豊岡市民プラザ(アイティ7F)

【太田 国雄】

◆参加者から一言◆

ごはん味噌汁だけでも、子どもは育つんだよ!

若い人達は、食についていい加減に考えている人が多いと思っていたのですが、参加してくれたお母さん達は、とても熱心で素直に受け止めてくれたので、私自身もほっとし、救われた気分で嬉しかったです。

食育って、実は難しい事ではなく、とても簡単な事なんです。難しい料理を作らなくても、家庭で毎朝ごはん、旬の野菜たっぷりの味噌汁を食べさせていけば、子どもは丈夫に育てられるんです!と、これからも若いお母さん達に伝えていきたいです。

管理栄養士 田中 香代子

お母さんたちの感想

◎今日はありがとうございます。とても勉強になりました。子どもが美味しそうに食べている姿を見て、田中先生のお話を実感しました。

◎朝ごはんの大切さを教えていただき、目から鱗の講座でした。ありがとうございます。早速、明日の朝食はごはんにしようと思います。

◎ありがとうございます。今までも朝食はごはんでしたが、明日からは自信を持ってごはんを食べさせます。



自立の郷

●「但馬地域づくり応援ネット」-住民による主体的な地域活性化応援グループ

地域づくりへ、
グループセッション(交流・協働)しましょう!

私たち「但馬地域づくり応援ネット」はグループ員10名で発足し、「住民による住民のためのまちづくり提言(提案)」を目的としています。地域づくりに取り組む団体との意見交換による「住民による地域活性化方策の研究」に取り組んでいます。これまでの活動内容は先進地視察5回、検討会を3回、フォーラムを1回行いました。

- ①第1回先進地視察(朝来市)
生野町口銀谷の「井筒屋」は、行政とのタイアップがうまくいっている代表例でした。
- ②第2回先進地視察(豊岡市竹野町)
近年のペットブームに伴い、今後の「わんわんビーチ」の展開に注目です。
- ③第3回先進地視察(養父市八鹿町)
少子高齢化や人口の減少、さびれゆく商店街で元気な地域、生きがいのある地域づくりを進める住民グループの活動は、但馬の多くの地域が直面している課題への住民主体の挑戦として注目すべきものがありました。
- ④第4回先進地視察(新温泉町・旧浜坂・温泉町)
浜坂先人記念館「以命亭」は、まちづくりの核として、浜坂のことが何でも分かるようになっています。
- ⑤第5回先進地視察(豊岡市出石・但東町)
高齢化が進む小規模集落でもある奥赤地区の「あじさいの里」づくりは、他地域との交流が住民のやる気を出させた例として、大変参考になりました。
- ⑥地域元気づくりフォーラムの開催
今までの活動で生まれたネットワークを活かし、地域づくりについて話し合いました。
今後も地域づくり、まちづくりについての研究を深めて参りたいと存じます。



上山高原エコミュージアムで話を聞く

[成相 博昭]

●次世代ネット-但馬の星づくりグループ

若者から元気を発信

我々「次世代ネット」グループは、自ら行動することにより、私たちの地域を少しでも盛り上げようと活動しています。また、多世代の交流を深め、特に若い世代がまちづくりに参加し問題意識を高めてもらおうとの目標を持っています。

この活動は、3期(H17~18)から、4期(H19~20)に継続されて、活動しています。3期では、まちづくりの視点から講師を招いて勉強会を開いたり、他の団体との交流がメインでした。

4期においては、それらの情報をもとに具体的な実践活動をしており、19年度は主に3つのイベントや座談会を開催しました。

- ①「復興の宴」
豊岡市新田地区で、台風23号から3年を契機に、あの台風災害に対しての問題提起と復興への応援の意味で、「復興の宴」というイベントを催しました。当時被害に遭われた方や行政を交えてパネルディスカッションを開催し、課題と対応などを真剣に話し合いました。また、地域への応援ということで地元出身のアーティストによるライブを行い、約300名の地域住民の参加がありました。
- ②「市長×20代×30代 はなしの『わ』」
12月に豊岡市長と豊岡在住の20代・30代の若者との座談会を開催しました。青田君というひとりの青年が企画し、次世代ネットグループがその手伝いをしました。未来の担い手である若い世代が地域について語り合うというのは、意義があることだと感じました。この座談会が少しでも刺激となり、若者がまちづくりに参加してくれることを期待しています。
- ③「ペットボトルイルミネーション」
ペットボトルを使ったツリーによるイルミネーションを企画し、豊岡市ひまわり公園で近所の子供たちとツリーを作り、かばんストリートさんの協力により点灯式を行い、ライトアップしました。元々は、但東町の商工会青年部が毎年行っている企画ですが、その活動を豊岡市街地にも広げようとの発想です。



ペットボトルツリーを作成・点灯

[吉岡 亮]

賑わいの郷

●但馬の川と峠の物語グループ

但馬の川の蘇りを目指す物語

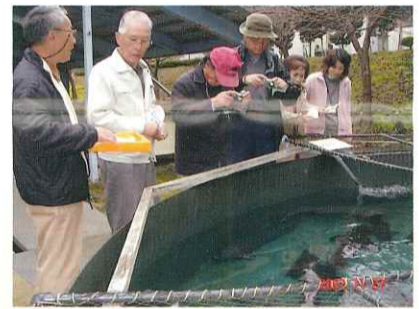
平成19年11月、県立内水面漁業センターを視察した。場所は、朝来市の田路川を遡った奥田路集落の中にある。「なんでこのような山深いところに?」と誰もが思うところである。答えは一つ「水がきれいだから」とは土岐章夫所長の言葉である。

『その昔、円山川の本・支流には晩秋から初冬にかけて産卵のため、日本海からサケの大群が遡上を続けていた。正徳三年(1713年)10月16日、朝来郡生野町円山の委文(しどり)神社は新しくできた拜殿の遷宮と秋の例祭で村中が喜びにわき返っていた。ちょうどこの時、サケの大群が委文神社の前を流れる円山川に押し寄せ銀りんをおどらせ遷宮を祝ったのだ。』

村人たちは「氏神さまの遷宮の日にサケの大群が押し寄せたのは神様のお使い。大切に迎えなければ…」とこの日を境に毎年、遡上してくるサケをとることをやめて委文神社を「サケの宮」と呼んでサケをいたわるようになった。』と神戸新聞但馬総局の名著「円山川」に書かれている。(昭和45年(1970年)刊)

この川に、生野鉾山の排水が流され汚染されたことは周知の通りであるが、当時の神社総代は『円山川への毒水排出を仮に止めたとしても数十年、円山川を上ることを忘れたサケが戻ってくることはまず無いであろう。』(原文のまま)と、語りこの節を結んでいる。

日本人は、争いの解決を「水に流す」という。「但馬の川に流された毒を消し」川を昔日の姿に蘇らせるべく、山深い水清き里で営々と見えない努力をしているのである。それが県立内水面漁業センターである。



内水面漁業センターを視察

[宿南 登]

●但馬の観光による活性化・多彩な交流促進グループ

観光・交流の原石を見つけ、光らせるためには・・・



生野銀山で話を聞く

但馬の市町が活力あるまちとしてさらに光り輝くためには、ひとつには我々の行動テーマである“観光による活性化と交流人の拡大”が不可欠であると考えます。

その点では但馬には今日まで数多くの観光客に親しまれてきた多彩な観光資源が各地に点在している。しかし、中には埋もれているものも数多くあると思われ、それらは磨き方によってはさらに光り輝くであろう。

わたしたちグループは、これらの原石(観光・交流資源)をいかに掘り起こし、どのように活力ある地域づくりに活かすかを模索する地域にお手本となる情報の提供を目的としている。そのため、先進的な地域を訪れ現地調査をしてきたところである。

今後は、今までの活動を振り返り、当グループに課せられた責務を自覚して、但馬が元気になる兵庫県が元気になるために、関係者が一堂に集い意見を交わす場の開催を検討している。

[藤原 進之助]

●但馬の民家探訪グループ

但馬の民家に感動の連続

7月から始めた現地調査も12月までに5回行った。8月は現地調査に代えて民家の勉強会と情報報告会を開いた。情報をまとめると150軒の候補があがり、2年間で全てを見て廻ることは不可能に近いほど多くの民家が存在することが分かった。そこで、地区別に担当者が写真撮影してまわり、その写真を元に現地調査先を決定している。これまでに旧市町村単位で5地区を廻り13軒の民家を見てきた。

そんな活動の中で参加者に大きな感動を与えた民家の発見もあった。12月に行った山東町栗鹿にある「K家」である。事前調査の写真である程度予想していたが、その前に立って参加者一同唖然としてしばらく沈黙。比類がないくらい大きな構えと、土塀を含めて外廻りは全て土壁仕上げとなっている。自然の中からそのまま生まれてきたような清楚な姿に心を打たれた。あるじの丁寧な待遇と説明で、山林王として財を成した屋敷は全て江戸期に形成され、今でもそのまま大切に扱われていることを知り、なお一層の感銘を受けて帰路に着いた。



古民家調査の様子

[福岡 隆夫]

●「森・川・海」の再生(生活環境)グループ

あなたもできる、エコ生活
古くて新しい風呂敷を見直す

豊かな自然に囲まれた但馬の地において、約半世紀ぶりにコウノトリの幼鳥が自然界で巣立ったニュースが全国に流され、多くの人々に感動を与えた。

自然環境に最も力を入れている地域として但馬が目目される中、「但馬の環境保全の取り組み」への視察や観光も多く見込まれ、但馬に活気の「種」を播いてくれるかも…。などと考える。

「自然環境を守る」意識の輪を但馬住民に広げていくことで、その先には但馬の農・海産物のブランド化など、地域活性化の最大のチャンスを迎えることができると考える。

我々グループも微力ながら、生活科学センターに協力し、但馬3市2町の大規模でのマイバッグ推進キャンペーンに参加した。その際、高齢の方のマイバッグ利用率が高かった。数人の買い物客に尋ねてみたところ、「近くの商店主が、マイバッグ持参で買い物をするとカードに印を押してくれま

す。」とおっしゃった。

「くらしの会」を始めとする婦人団体の皆さんの地道な活動(個人商店をまわり、一店一店に協力要請された)の成果を実感し、ご婦人団体各位のその努力に個人的に拍手を送らせていただきたい。

私たちのグループでは、マイバッグ運動のさらなる展開の一つとして、古くからの風呂敷を見直す活動にも取り組んでいる。マイバッグの中に1枚の風呂敷をたたんで入れておくと大変便利。かさ低く、苦にならない。

このような運動をしている。皆さんもぜひ1枚の風呂敷を持つことで、エコ生活を実践してみてください。

【藤田 貢】



マイバッグ推進キャンペーンに参加

●たじまのうたまつりグループ

ふるさとの町の歌・集めてみよう!

平成の大合併で但馬の様子もガラッと変わって、元の1市18町に刻まれたふるさとの息吹を伝える“町の歌”も、出番が少なくなってきました。

そこで、今こそ私たちを育ててくれた“ふるさとの町の歌”をしっかりと記録しておきたいと取り組みました。市歌、町歌、町民歌、音頭、小唄、民謡、子守歌、集いの歌などたくさんの資料が寄せられています。

今年度は、とりあえず集まった資料の多いところから、温泉町・浜坂町・城崎町・日高町・豊岡市・養父町・大屋町・村岡町(1市7町)と但馬全域を歌った歌、さらに、但馬スペシャルとして、酒造りの杜氏さんたちの仕事歌をそれぞれ1枚のCDにまとめて資料化することができました。残る11町については、更に資料収集に取り組み、来年度には目標を達成したいと考えています。

ひとつひとつの歌は決して有名でなくても、ふるさとの歌にはかけがえのない温もりがあると思います。人を…地域を繋ぐパワーは、時を経るにつれ“歌”に勝るものはありません。活動はまだ未熟ですが、今記録できたものは、いつかきっと役に立てるときが来ると思い、更に輪を広げて行きたいと思っておりますので、みなさんも力を貸してくださいませようお願いします。

【沖野 芳郎】



「たじまのうた」をCD化

【問い合わせ先】Tel.Fax.0796-26-1021

◎今年作成したCDは、各市町教育委員会・図書館に配布します。
また、一部の歌は「但馬情報特急(HP)」でも紹介の予定です。
CDの貸出を希望の方は、夢テーブル委員会事務局までご連絡ください。

●「森・川・海」の再生(自然環境)グループ

自然と私たちの生活の共生を目指して

昨年6月より活動を開始し、毎月ほぼ定期的に環境に関する学習会と各地の現地視察を実施し、自然環境の保全への関心を高める取組をしています。また但馬各地の地域グループの事業活動へ積極的に参加しています。

- ① のじぎくの郷づくり(但馬長寿の郷、コウノトリ文化館、豊岡市三江小学校、但東町出合地区等でのじぎくを植栽)
- ② 里山の自然観察会(豊岡市神美小学校)
- ③ 県立森林林業センター(宍粟市山崎町)を視察し、里山保全について学ぶ
- ④ 木を植えて川・海の魚を殖やす植林事業(新温泉町)に参加
- ⑤ 但馬長寿の郷まつり(養父市八鹿町)に参加し、のじぎくの苗を配布
- ⑥ 花と緑のまちづくり研修会(養父市関宮町)に出席し、環境保全の必要性について学ぶ
- ⑦ 特別天然記念物オオサンショウウオの生態系と野生生物との共生について学ぶ

【宮本 勝美】



新温泉町で植林事業に参加

●地域防災・減災のネットワークづくりグループ

地域防災を学び、発信する

第3期(H17~18)但馬夢テーブルで我々グループは、「地域防災力の向上」の名の下に活動してきました。平成16年の台風23号が、但馬地域に甚大な被害をもたらした後も、大きな被害を受けた地区の区長さん方から、貴重なお話をお聞きました。

これを土台に「地域の防災・減災ネットワークづくり」として第4期(H19~20)から新しく活動を始めました。前号にも書いていますが、災害の被害を減災する一番のキーワードは、普段からの地域・地区での「人と人との強い繋がり」であり、これがいざと言う時に大きな力を発揮する事を学び、そしてそのことを地域に発信していかなければならないと考えています。

【高倉 清】



台風23号災害についての講演会

●地域の助け合いネットワークづくりグループ

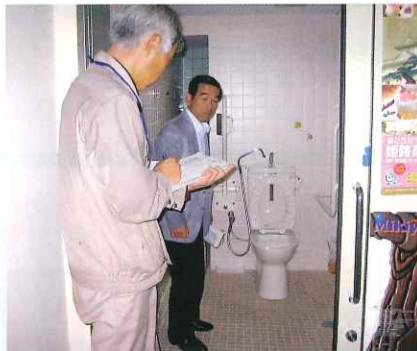
「共に生きる」地域社会を目指し、
車イス対応トイレの調査を実施中

身障者(児)・高齢者・父親や母親と子供・ひざ痛や腰痛のある人たちの外出を支援するため、豊岡市内の公的施設を中心に利用可能なトイレ施設を調査して改善等のお願いをしています。

これまで約40箇所の調査を実施し、これからも継続していく予定です。しかし、車イス対応トイレは広いスペースを必要とするため、まだまだ少ないのが現実です。

今後、1箇所でも多く利用可能な施設が増える事を期待しています。

【中嶋 忠男】



車イス対応トイレの調査



しゃべり場 スタジオ100

助け合い・募集・お知らせ・近況・活動・etc.
～読者の皆さんの投稿をお待ちしています～但馬夢テーブル委員会活動に
巻き込まれてしまいました!

去年12月、僕は但馬夢テーブル委員会の方々の力をお借りして、豊岡市長との座談会を成功することができました。ひょんなことがきっかけで、委員長の西垣さんと知り合いこのような大仕事が出来ました。



豊岡市長と若者の座談会

市長との座談会は12月に行ったのですが、8月くらいから但馬夢テーブル委員会の打ち合わせに参加してさせていただきました。僕はその時ちょっとしたショックを受けました。みなさんがとても真剣だったのです。何に真剣かという地域活性化についてです。

ある日の夜、街を歩いていると、いつもは暗くて寒い街の一角に一つの明かりを見つけました。その光はペットボトルで出来たツリーの灯りでした。その灯りはとてもきれいでした。この灯りを灯したのは夢テーブル委員会の方々です。地域を盛り上げよう、元気づけようという委員会の姿勢と行動に、僕は感動しました。

これからの地方は少子高齢、過疎化など様々なことが問題となっていきます。そのなかでこんな明るいグループがあることはすばらしいことだと思います。これらも但馬のみんが明るくなるように頑張ってください。

[青田 拓也]

『食の安全・安心』体験会に
参加して

6才の息子と、初夏に無農薬トマトを使ったケチャップ作りを体験し、秋には祥雲寺の田んぼでの「こうのとりの米」を中心とした調理試食会に参加しました。毎日食べるお米には皆の関心も高く、たくさんの友人親子も一緒に参加し、羽釜で炊いた美味しいごはんをいただきました。

その後文政府で行われた講座では、お米をさらに見直し、ごはん食を増やすきっかけとなりました。ミキサーを使って胃の中をシミュレーションし、朝食にごはんを食べることの利点を教えていただいたことで、我が家は毎朝ごはんと味噌汁が並ぶようになり、米の消費量が約2倍になりました。一緒に参加した友人宅では、長年朝はパン食党のおじいちゃんまでごはん食になるという革命が起こったそうです。

3回の体験会に参加して、食への安全意識が高まったのはもちろんですが、食卓に和食が増えて豊かになったと実感します。子どもが小さいうちに参加できてよかったです。



親子で食の体験会

[牧野 裕美子]

たんたん温泉で村づくり

資母(但東町の旧村)地域のまちづくりを進めていくために、平成18年4月、資母地区活性化委員会が発足し、私を含め6名の住民が任命を受け活動を続けています。

今夏、オープンする「たんたん温泉 福寿の湯」を核にして自然、祭り、味覚、観光施設、農家民宿などをネットワークし、資母を活性化させるための調整・相談役を果たす委員会です。「地域が必要とすることを提案し、自ら実践しよう」と話し合い、これまで全戸に「たより」を8回配布しました。また、全区民対象の地域振興アドバイザー懇談会を開いたり「空き屋」情報等を掲載したホームページの開設などに取り組んでいます。



地域振興アドバイザーを囲み、まちづくりについて話し合う

資母地区活性化委員長(但馬夢テーブル委員)

[小西 護]

「但馬夢テーブル倶楽部」OBの活動紹介

私たちは、夢テーブル委員から巣立った今も活発に活動しています。

小さな住民活動から世界のジオパーク活動へ

平成14年に、但馬夢テーブル委員会・賑わいの郷部会の有志で「山陰海岸国立公園を世界遺産にする会」を結成し、現地視察研修会を開催しました。その後、世界自然遺産候補地に関する国の検討会に資料を提出して、世界遺産候補地になりましたが、残念ながら選にもれてしまいました。

この年、波田重熙(はだしげき)先生(現神戸女子大学長)より、ユネスコジオパークにこの提言をいただきました。

さっそく浜坂・香住・竹野海岸めぐりを実施し写真撮影を行い、香住町文化会館で『フォーラム 但馬海岸の謎を探る』を開き、その後も浜坂・香住海岸見学と講演会『ユネスコジオパークの取組』を開催しました。

平成18年に映像『地形地質の博物館 山陰海岸国立公園』を作成して関係者に配布し、そんな活動の積み重ねから、北アイルランド第2回世界ジオパーク会議に山陰海岸の映像を発表することができました。

兵庫・京都・鳥取の3府県と関係市町村の動きもまとまり、平成19年には「山陰海岸ジオパーク推進協議会」が結成され、会員のみなさんにも参加していただきました。

その後、日本ジオパーク連絡協議会も生まれ、事務局体制も整備され、国の方向も定まって、ユネスコへの登録も近づいてまいりました。行政主体の活動になりましたが、ジオツーリズムが成功するためには、それぞれの地域のリーダー、ボランティアの活動が必要です。新年度も専門家を招いて、浜坂・香住・竹野で船を借り上げて自然観察会と研究会の開催を計画し、地域のリーダーとして活躍される人材を育てていきたいと思っております。

山陰海岸国立公園を世界の公園にする会 会長 [田中 榮一]



地才地創シンポジウム in 但馬

【趣旨】「地域の多彩な「才」が、新しい地域を「創造」する」をテーマに、これからの地域のあり方や可能性について、紙面展開とシンポジウム等をあわせ、県民とともに考えていくなかで、「地域の元気」を呼びおこし、それを「ひょうごの元気」につなげていきます。(神戸新聞創刊110周年記念事業)

【開催日】平成20年6月7日(土) 13:30～

【会場】養父市ビバホール(養父市広谷250)

【内容】講演(写真家 織作峰子さん)、シンポジウム、アトラクション

【定員】300人

【問い合わせ】但馬県民局企画調整部企画調整課
TEL0796-26-3611

「たじま田舎暮らし情報センター」をご存知ですか?

都市部との交流を促進する情報発信拠点として、相談員が情報収集、提供、相談を行っています。

(財)但馬ふるさとづくり協会内(豊岡市山王町11番28号)

月～金曜日 8:30～16:45 TEL0796-24-2247 FAX0796-24-1613

ホームページ <http://www.tajima.or.jp/modules/secondlife/>Eメール tjm-furusato4@tajima.or.jpこんな情報を
求めています。

- ・空き家、農地(田畑)を貸したい。
 - ・田舎暮らしについてのあれこれ(雑感)
 - ・これから但馬に暮らそうとする方へのアドバイス(知恵、工夫)
 - ・IJUターン経験談(苦労話)
 - ・その他、田舎暮らし関連のイベント、トピックス など
- ※「田舎暮らしブログ」に投稿いただける方大歓迎です。お気軽にご連絡ください。

お知らせ

●但馬夢テーブル委員会に関するお問い合わせは下記までご連絡ください●

〒668-0025 兵庫県豊岡市幸町7-11 但馬県民局内 但馬夢テーブル委員会事務局(企画調整部地域ビジョン課)

TEL:0796-26-3615 FAX:0796-24-7490 URL:<http://web.pref.hyogo.lg.jp/area/tajima/vision.html>

19但馬P2-018A2